

安倍政権の「安全保障関連法案」に反対する真宗大谷派東京教区教区会・教区門徒会決議

今年には戦後 70 年の節目を迎えます。その終戦の日に先立って、集団的自衛権の行使容認を内容とする「安全保障関連法案」が衆議院を通過しました。数の力を背景とした、政府与党の強引な国会運営と言わざるを得ません。最も問題なのは、民意に耳を傾けず、憲法の解釈を変更してまでもこの法案を成立させようとしていることです。たとえ野党を含めた全会一致であったとしても、またいかなる理由であっても、憲法に反した立法は断じて許されないのです。

私たちの教団は先の大戦において国家体制に追従し、戦争に積極的に協力して、多くの人々を死地に送り出すという過ちを犯しました。また国民の多くも翼賛体制に従い、国の内外に多数の死者を出して敗戦を迎えたのです。私たちは、この歴史的事実を深い懺悔をもって受け止め、二度とこのような過ちを犯さないために、日本国憲法の国民主権・基本的人権の尊重・平和主義という精神を今日まで守り続けてきました。その結果、政治権力を暴走させない、自由で民主的な日本の社会が構築され、またアジア諸国をはじめとして世界から平和国家としての高い信頼を得ることができたのです。

この度の「安全保障関連法案」の衆議院通過という事態は、主権の存する国民の意思を無視し、違憲立法を押し進める安倍政権の暴挙であり、立憲主義の完全な否定です。戦後築き上げてきたわが国の姿をいとも簡単に破壊してしまう、このような専制的政治手法を絶対に許すわけにはいきません。

私たちは真宗仏教徒です。仏教徒は、非暴力と平等を生涯の課題とする民ということです。

ブツダは言われます。

「あたかも母がそのひとり子を おのが命に代えてまもるがごとく
生きとし生けるもののうえに かぎりなき慈しみの思いをそそげ
また一切の世間にたいして かぎりなき慈しみの思いをそそげ
上にも 下にも また四方にも
うらみなく 敵意なく ただ慈しみをのみそそげ（経集 1-8 慈経）」

今こそ、平和の民・仏教徒は、全世界に向けて戦争の愚かさを発信しなければなりません。

私ども真宗大谷派東京教区は、仏教徒の立場から、日本国憲法の精神を葬ろうとする安倍政権の「安全保障関連法案」の成立に、断固として反対するものであります。

2015年7月29日

真宗大谷派東京教区教区会

2015年7月30日

真宗大谷派東京教区教区門徒会